

新

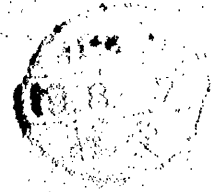
軍機

功績調査部 長 殿
機密第一八號 六一六

昭和十九年六月一日
至昭和十九年六月三十日

9/10

七月五日送付



0675

厦門方面特別根據地隊戰時日誌

厦門方面特別根據地隊

(目次)

一	經	員	現	狀	過
二	人	員	現	狀	過
三	令	達	報	告	等
四	參	考			
	(一)	戰	訓		
	(二)	寫	真		
五	作	戰	經	過	概
					要
六	醫	務	衛	生	
七	會	計	經	理	
附錄	海軍	警	察	隊	戰
					時
					日
					誌

(目次終)

0676

自昭和十九年六月三十日 厦門方面特別根據地 戰時日誌

一 經過

(1) 敵情

(一) 福建省一敵 (別圖第一參照)

(1) 本月頭ニ於ケル敵布陣狀況ハ畧前月同様ニシテ大ナル變化ヲ見ザリシニ量ニ重慶ニ於テ一中全會ニ出席セル省主席 劉建緒ノ五月二十八日歸省ヲ見ルヤ本月一日ヨリ五日迄、冰坎ニ於テ第三戰區司令長官日 福建省主席、浙江省主席、管下各師長參集ノ下ニ第三戰區定期軍事會議ヲ開演サレン模様ニシテ、會中内容ハ夏季總反攻ニ對スル重慶軍事委員會ノ方針及作戰計畫ニハ密議シタルモ、如シ、而シテ今次我々河南作戰、湖南作戰、進展ニ伴ヒ、應急對策ヲ、閩東閩南方面ヨリスル秋ノ進攻ヲ備フルモ、如ク、沿岸地區一帶ノ防備ハ漸次強化サレツアリ、情報ニ依レバ閩、南海防警係隊、新編、泉州城内ニ於テ先高角砲陣地ノ新設、外第ニ軍々長ハ、十二個所ニ米國人技師及砲兵將校十餘名ヲ派シ、重砲臺ノ構築ヲ指示シ、工事ハ既ニ本月末開演セリ、晉江縣、頭、羅源縣止、莒前、連江縣、長門、閩侯縣、馬尾、福清縣

平潭、莆田縣平海、惠安縣大炸山、詔安縣詔安灣、漳浦縣虎頭山、及東山島。

閩西方面永安一帶ニ駐防中ナリシ豫備第九師ハ湖南作戰、急ニ應ジ本月二十日急據出發セリト云ハレ、第九師部隊亦兵子ノ一部ヲ漳州ニ殘留セシメタル也。龍岩方面ニ移駐シ近ノ湖南作戰ニ加シ準備ニ任殺シツアルモノ如シ。

尚最近江西省方面ヨリ第六十三師(師長楊祖濬)未省司令部ヲ光澤ニ設置シ、浦城、建陽、建瓯、延平、一帶ニ駐防シ裝備優秀ナリトノ情報(確度丙)ニ接セリ、斯クシテ敵側ノ異常ナル緊張ハ漸ク表面化スルニ至ルリ。

(二) 廈門、鼓浪嶼、金門島對岸地區(別圖 第二卷 照)

(1) 對岸地區敵止規軍部隊配備ハ畧々前月同様ニ依然トシテ漳州方面概不第第一七師、泉州一帶ハ第八師駐防シ本月頭永安ニ於テ軍事會議以來沿岸防備、軍事施設、新設等一段ト強化ノ傾向アリ。

即チ本月二十日泉州城内ニ第八師ニ依リ新式高角砲四門及機銃(軍用製)ヲ設置、防空措置ヲ注シテ外省政府ニ於テハ在厦

鼓、金門對岸遊擊隊ヲシテ海上緝私換運隊ナルモヲ編成シ南安海澄間沿岸各要所ニ兵約三百ヲ配シテ全省物資ノ廈門へ流出阻止ニ積極的ナリト。加フルニ左、如キ團體、招頭アリテ廈鼓金門ニ對シ虎視眈眈タルモノアリ。

(i) 六月日漳州ニ廈門收復救郷會成立。廈門ヨリ歸郷ノ僑民、流民、難民ヲ以テ組織サレ軍事諜報ノ各訓練ヲ施シ廈門先頭部隊トナサシムト。

(ii) 六月十日漳州ニ抗敵敢死隊ノ組織ヲ見ル(隊員約三百)

(iii) 擊金行動隊陣容強化。量ニ泉州ニ於テ組織セル擊金行動隊ハ最近金門島對岸大嶺與ニ一部兵カラ送り金門軍情ノ蒐集ニ任ゼシメツツアリト。

(iv) 本月初旬漳州駐防中ノ第一師ハ湖南作戰参加ノ爲龍岩方面ニ移動シ漳州石碼方面ニ該師ノ一部兵力残存シ(兵力不詳)李延年ナルモノ残存部隊ノ指揮監督ニ當リ居レリト。

3 (三) 石島對岸地區(別圖 第三卷 照)

本月初旬於ケル敵ノ配備狀況ハ前月ニ大差ナク積極的蠢動ヲ認ザルモ福州駐在第一五七師之長黃濤ハ馬尾要塞司令官李世甲ト共ニ馬尾附近一帶ノ視察ヲナセリ。反間タル馬尾附近要所ニ地雷ノ埋設、高角砲陣

地ノ施設爲ナリトノ情報アリ

(四) 在支米空軍及敵潜水艦

在支米空軍

(1) 湖南作戰ニ於テ我陸軍航空部隊ノ先制爆撃ヲ受ケ、西南部

基地ニ甚大ナル損害ヲ蒙リタル在支米空軍ハ漸次其ノ重兵ヲ西北部

ニ移メツアリ、其ノ證據左トシテ最近陝西省、安東、南鄭ハ急遽ニ整備強

化サレル外、騰海線上ノ寶鷄、天水、甘肅省蘭州等ニ有カナル基

地ヲ設置中ト云ハル

(2) 本月當方面ニ對シテ敵機ノ動向ハ低調ナリシモ、二十九日 P38 型一機高々度ニテ

未熟、偵察セシ外、數回ノ爆音ヲ聽取セリ、

(3) 福建省ニ於ケル在支米空軍關係消息(情報ニ依ル)左ノ通

一(一) 在支米空軍ヨリ増派ノ飛行機六機、隊長「ピット」引率ノモトニ

最近漳州飛行場ニ到着セリト(真疑不明)

(二) 長汀飛行場ハ目下拡張ニ事ナリト

敵潜水艦

本月我担任海域ニ於ケル敵潜水艦動ハ不活潑ニシテ十三日一。蓮花峯

角ノ南東十三哩ニ出現ノ報ニ接シ水偵ニ依リ索敵ヲ實施セルノミニシテ概不臺

(ロ)

我が軍ノ状況

湾周邊及南西海面ニ出沒依然トシテ海上交通破壞ヲ企圖シツアリ。情報係ハ福建省福鼎縣内、沙埕、南鎮ニ屢ニ敵潜水艦ノ出現シアリテ基地又ハ補給地トシテ利用シ居ルモノ如シト。

(1) 敵艦艇、航空機ノ沿岸及島嶼利用阻止

(2) 所管海面ニ於ケル海上交通保護(航路標識ノ確保、非占領地域ヨリノ重要物資ノ獲得、援護ヲ含ム)

(3) 敵國艦艇ニ對シテ中立國船舶ノ拿捕抑留

(4) 非占領地域ノ軍需物資補給ノ遮断

(5) 廈門港ノ防備、廈門、鼓浪嶼、金門、川石各島ノ確保

(二) 編制(別紙第一軍隊區分参照)

第二遣支艦隊、廈門方面特別根據地隊

廈門方面部隊兵部部署ニ依リ部隊ヲ分チ主隊(廈門島部隊)島外派遣

隊(金門島、川石島)監視部隊(甲監視部隊)乙監視部隊(飛行機隊トス)

(三) 配備(別紙第二第三別圖第四第五参照)

(1) 主隊ノ大部ヲ以テ廈門島、鼓浪嶼及島外派遣隊ヲ以テ金門島(約二小隊)

川石島(三小隊)ノ確保ヲ防備ニ當ラシム

(2) 監視部隊及主队各艦艇ヲシテ敵艦艇、航空機等ノ沿岸及島嶼利用阻止

所管海面ニ於ケル海上交通保護及非占領地域ノ軍需物資積込ノ遮断ヲ任ゼシム

(3) 厦門島部隊中ノ水上警備科ヲ以テ厦門港附近海面ノ警戒及港務(艇)任ゼシム

(4) 飛行機隊ノ所要ニ應ジ海上交通保護及對潛、索敵攻撃ニ任ゼシム

基地ノ爆撃ニ當ラシム

(5) 南澎湖島燈臺(警戒兵五名)北提島燈臺(警戒兵七名)東提島燈臺

(警戒兵三名)及閩南警備軍若干(烏坵與燈臺(警戒兵四名)ニ警

戒兵ヲ派遣シ警備並ニ防空警報ノ速報ニ當ラシム、其他ノ燈臺ハ張

逸舟總司令、福建和平救國軍ヲシテ守備セシメツアリ、

但シ青島、大撻嶼、各燈臺ハ閩南警備軍ヲシテ守備セシメツアリ(別

圖第六卷(照)

(一) 對潛掃蕩

十三日蓮花峯角南東十三哩ニ敵潛出現ノ報ニ接シ、水偵ニ號機ヲシテ之ガ

索敵攻撃ニ任ゼシム、水偵ニ號機一八四五基地發進、鎮海角ニニ〇度二八分

一蓮花峯角一鎮海角ノ索敵ヲ實施セルモ敵潛ヲ認メスニ四五歸投セリ。

(二) 一般警備

(1) 百三三〇頃、廈門大陸間交易船舶ニ隻、鼓浪嶼發、大嶼島方向ニ向テ航行中、大嶼島及對岸、五細更テ右突端陣地ヲ小銃機銃ノ射撃ヲ受テ、該船ハ辛シク逃避歸與セリ。

鼓浪嶼分遣隊ハ直ニ嚴重監視警戒ヲ實施セルモ、其ノ後異常ナシ。

(2) 十月、十四日、鼓浪嶼分遣隊ハ對岸五細更テ中央棧橋ニテ鐵材塔載中ノ敵我克一更更認メ四十耗機銃ヲ以テ攻撃シ、我克ヲ坐礁炎上セシムト共ニ、乘船中ノ敵兵三、廿力一ヲ死傷セシメタリ。

(3) 十七日、臺灣施政記念日ニ當リ、陸上警備科兵力ノ一部ヲ以テ特別巡邏隊ヲ編成シ、廈門市街地區及島端地區ノ終夜巡察警戒ヲ實施シ、抗日分子ノ策動未然防止ニ努メタリ。

(4) 六月中、水上警備科ニ依ル我克(漁船)臨檢數次ノ通、大型 七七、中型 三三八、小型 八九四、計 一三〇九。

(三) 其他水偵係、對潛哨戒、監視部隊ニ依ル担任水域ノ警戒哨戒ヲ實施セリ。

(四) 教育訓練

(1) 艦隊教育方針ニ基キ、極メテ順調ニ進歩シツ、アリ、前月同様對空戰鬥教練ニ重点ヲ置キ、常時對空警戒配備ニ就カシメ、機宜訓練ヲ實施。

0683

對空戰闘ニ萬全ヲ期スル共ニ八回ノ訓練日ヲ度メ、未ダテ夜間訓練ヲ勵行、尚、一回警備演習ヲ實施ス外、機ヲ見テ武技体技ヲ行ハ技柄、向上、体ヲ、鍊成士氣ノ振作ヲ圖リツアリ。

(2) 初任下士官特別教育

機密第ニ遣支艦隊日令第ニ八號ニ依リ本月一日特別教育ヲ開始シ、夜間早朝ヲ利用シテ實施、極メテ順調ニ進捗シ本月三日終了セリ。

(3) 施設

(1) 二十日鼓浪嶼令遣隊第陣地ニ十五種迫撃砲一門裝備ス(四、參考、項中寫真ノ部參照)

(2) 高崎飛行補助基地工事

(一) 工事ハ順調ニ進捗シ前月ニ引續キ工事中、自動車庫、防空壕ハ本月完了シ四機一ハ組立終了完備セリ。

(二) 工事 中ノモノ

大型 抱体三(殆ド完成)

(三) 未着手ノモノ、格納庫、燃料庫(四、噸)

(3) 電探裝備工事

本月諸測量完了シ十八日電波探信儀三式一號三型一臺裝備ニ

廈門特報

19-6

6

九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
厦									丸山嵐
厦			厦門	厦門	厦門	厦			警備 號三十
厦									丸角大
門			厦			厦			丸大福
石			川			厦			丸振名
門			厦			厦			七十 丸進南
厦									號 丸日春
厦									丸寶長
門			厦			厦			三 丸日海
厦									一 丸橋八

(二) 附屬艦船航行動

着手、目下順調進捗中ニシテ七月初旬完備ノ豫定、尚七月初旬ヨリ既
訓令一號一型電波短信儀裝備ニ對ス諸工事ニ着手ノ豫定ナリ。

0685.

厦内舟楫 19-6

二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一

門

馬祖山	門
-----	---

門

石	川	馬祖山
---	---	-----

了額十ニ揚陸為、入于舟船日四ニ) 厦 ~ 島

沖 港 漁

島 門

(ス揚陸メタノ理怪関機体船日ハ) 門

崎 高 島

門

0686

0686

職	主	務	官	氏	名	記	事
司令官			中	原	清	一	
參謀兼副長			中	関	祐	滋	
隊附長	通信科長第六分隊長 疏海長職務執行		少	沼	井	昭	
同	陸上警備科長第三分隊長 兼中隊長 高兵司令砲術科長職務執行		大	石	橋	熊	八郎
同	水警備科長第四分隊長 港務補給科長		同	田	中	善	次
隊	附 航海士第三十三號警備隊長		同	藤		秀	一
隊	附 港務補給科附		同	河	合	米	三郎
隊	附 第三分隊長 第二中隊長		少	玉	井	義	盛
同	兼甲級士官 副官 大隊指揮小隊長 第二分隊長 隊副官 大隊指揮小隊長 隊長 高兵副司令		同	八	木	福	次郎

二人員ノ現狀
 (1) 現員官氏名 (六月一日現在)

三〇	二九	二八	二七
厦門			
島			
厦門 (郵)			
島			
厦門			
島			
厦門			
島			

0687

至昭和十九年七月一日 厦門方面特別根據地隊戰時日誌

一 經過

(1) 敵情

(一) 福建省一般 (別圖第一卷照)

今次我湖南、桂、廣、東方面作戰ノ進展ハ重慶ヲシテ狼狽其ノ極ニ達セシメタル感アリ。加フルニ福建省ニ對スル日本軍上陸作戰必至ト判断シ兵方ノ後ヲ切ニ愈々頻繁ヲ示スモノアリ。六月二十七日廣東省ニ在リシ第一師(乙等師)ノ閩西方面ニ末省ヲ見ルニ至リ、永、泉、平和、南靖一帶ニ駐防スルニ前後シテ量ニ江蘇省方面ヨリ南下シ光澤一帶ニ在リタル第八十三師(一說ニ六十三師トモ謂ハル)何レガ真ナルヤ不明。八月二十八日閩東地方、福州、羅源、寧德ニ移駐シ在駐中獨立第三十三旅ト協同防禦線ヲ展張シタリト謂ハレ、而シテ第三戰區司令部ニ於テハ福建省ノ孤立ヲ免カレントスルニ汲汲タルモノアリ。本月十日在江西省遂川第三戰區司令部ヲ急遽福建省内建甌ニ移轉シ福建省ニ於ケル抗戰軍備指揮ノ萬全ヲ期シタルモノ如ク、沿岸地區一帶、殊ニ福州方面民衆ノ輿地疎散ヲ圖ル方壯下ノ望發、閩江河ノ機雷増設ニ依ル海面防備、省内空軍基地ノ擴張新設、工事ヲ進メツツアリ、又閩南方面第一線防禦區域ヲ龍岩ト決定シ適中、和溪、坎市ヲ通ズル線ニ。余料ニ直ル防禦陣地ノ構築ヲ急グ等寧日ナキ狂奔振ヲ示シツツアリト。

(二) 厦門鼓浪嶼 金門島對岸地區 (別圖第二參照)

(1) 對岸地區敵正規軍部隊ノ配陣ハ畧前月全様ニテ大ナル變動ヲ見セズ依然トシテ漳州方面概テ第七師駐防シ厦門對岸ヨリ漳州ニ至ル兩沿岸一帶ニ約三個營ノ兵力ヲ懸保安隊其他ヲ配シテ只管防備強化ニ腐心スル一方民衆ノ輿地疎散ヲ督勵シツアリ 日本軍福建進攻近シト見テ民心ノ動搖甚クシキモノアリト 尚最近漳州ニ第一七師部隊ノ往來ヲ見ルト云フ
(2) 駐漳七師政訓處ニテハ摩下各部隊ヨリ二十歳以上三十歳迄ノ青年優秀下士官兵ニ名ヲ選拔シ重慶國防最高會議新定ノ陸軍挺進隊訓練方法ニ基テ特別訓練ヲ開始シ其質的向上ヲ圖リツアリト
(3) 七師政治部主任周墨ハ六月二十六日龍岩縣党部記念式典席上ニ於テ、閩南警備線ハ龍岩ニ其ノ重点ヲ置キ萬全ノ設備ヲ構シアリテ漳州泉州一帶ハ事情ヨリ之ヲ放棄スルトアルベシト談話セリト。

(三) 川石島對岸地區 (別圖第三參照)

(1) 本月ニ於ケル對岸地區、長門、瑯頭、方面敵配備狀況ハ前月ニ大差ナキ模様ナレド福州周邊ニアリテハ日本軍ノ福州作戰ヲ極度ニ危懼シ六月二十七日閩江口ニ機雷多數敷設(敷設個所目下不明)シテ外一般人民ノ疎散ヲ督命シ各機關又輿地移轉準備中ニシテ福州市ハ夜間燈火管制ヲ行ヒツツアル状態ナリト 福州海軍陸戰隊第二旅司令部ニテハ七月上旬兵力約一團ヲ莆田興化灣方面ニ駐セシメ陸軍部隊ト協力セシムル

ト共ニ馬尾要港司令部ヲ閩江々防司令部ト改稱シ沿岸防備ニ刷新ヲ圖ル等々
方面ハ異帯ナル緊張振リヲ示シツツアリト

(2) 米英重慶合休ヨリ沿海軍事情報視察團一行ハ六月十八日長樂梅花一帶ニ
亘リ米英海軍基地利用ニ関シ視察ヲ遂ゲタリト謂ハル

(四) 在支米空軍及敵潜水艦

(1) 在支米空軍

本期間當方面ニ對スル敵機ノ動向ハ前月今様消極的ナリト雖モ七月厦
門島ニP38型一機高々度ニテ侵入偵察ヲ試ミタル外厦門島慈金
門川石島其ノ他ニテ不明爆音ノ聽取數回ヲ算スルモノアリ依然トシテ我
海上補給線ノ遮断ヲ企圖シ居レリ我カ湖南作戰ニ依リ一大據点衡陽
ヲ喪失セル敵ハ漸次後退桂林ヲ主基地トナシ芷江梁山恩施等ニ據
リ其ノ類勢挽回ニ焦慮シツツアリテ福建省内ニ於テモ空軍基地ノ補強
擴充工事ノ實施ヲ急ギツツアリ建甌龍巖長汀永安ノ四基地ニハ
既ニ米支混合空軍機約一機以上待機スト謂ハル(確度丙)

福建省ニ於ケル各空軍基地消息(確度丙)左ノ通
六月十日頃ヨリ七月一日頃迄ノ毎夜九時ヨリ今十二時頃迄ノ間ニ永定飛行場
ヨリ飛行機(機種不明)三機或ハ四機編隊ニテ漳州市上空ヲ飛翔シ其
ノ目的不明ナモ漳州永定間夜間訓練ヲ施行セルモノ如シ
龍巖飛行場山洞貯油庫ハ殆ト完成セリト謂ハル

0691

(2) 敵潜水艦

本期間臺灣海峡(台湾専)及南西海面に於て敵潜水艦の出沒頻繁ニシテ漸次活潑ナル動向ヲ示シツアリ。當隊担任海域内ニ於テ八七日北緯三度四十分東經一七度五十分ニ其ノ出現一回ヲ見タリ。情報ニ依ルニ米當局ハ中部太平洋潜水隊司令コロソクウッドヲシテ宥下向ヨリウエリントンニシテ指揮ノ一干噸級潜水艦三隻ヲ支那沿海ニ出動セシメ我輸送補給線ノ破壊ヲ企圖シツアリト。

(1) 我が軍ノ狀況

(一) 任務

- (1) 敵艦艇、航空機等ノ沿岸及島嶼利用阻止
 - (2) 所管海面ニ於ケル海上交通保護(航路標識ノ確保並ニ非占領地域ヨリノ重要物資獲得ノ援護ヲ含ム)
 - (3) 敵國艦艇之ニ單ズベキ中之國船舶ノ拿捕抑留
 - (4) 非占領地域ヨリ軍需物資補給ノ遮断
 - (5) 厦門港ノ防備、厦門鼓浪嶼、金門、小金門並ニ川石各島ノ確保
- (二) 編制(別紙第一参照)
- 第一遣支艦隊、厦門方面特別根據地隊
 厦門方面兵力部署ニ依リ部隊ヲ分チ主隊(厦門島部隊)島外派遣隊(金門島、川石島)監視部隊(甲監視部隊)乙監視部隊(飛行

機隊トス

(三) 配 備 (別紙第一、第二、別圖第四、第五參照)

(1) 主隊ヲ大部ヲ以テ廈門島、鼓浪嶼及島外派遣隊ヲ以テ金門島(約テ小隊)川石島(テ小隊)ノ確保ヲ防備ニ當ラシム

(2) 監視部隊及主隊各船舶ヲシテ敵艦艇、航空機等ノ沿岸及島嶼利用阻止、所管海面ニ於ケル海上交通保護及非占領地域ヘノ軍需物資補給ノ遮断等ニ任ゼシム

(3) 廈門島部隊中ノ水上警備科ヲ以テ廈門港附近海面ノ警戒及港務一般ニ任ゼシム

(4) 飛行機隊ハ所要ニ應ジ海上交通保護及對潛索敵攻撃ヲシテ敵軍事基地ノ爆撃ニ當ラシム

(5) 南澎高島燈臺(警戒兵五名)北提島燈台(警戒兵三名)東提島燈臺(警戒兵三名)及閩南警備軍若干(烏坵、燈臺、警戒兵五名)及和平救國軍若干(警戒兵ヲ派遣シ警備ヲ防衛警戒ノ速報ニ當ラシム)其他ノ燈台ハ張逸舟總司令ノ福建和平救國軍ヲシテ守備セシツツアリ(別圖第六參照)

但シ青嶼、大担嶼各燈臺ハ閩南警備軍ヲシテ守備セシツツアリ、

(ハ) 作戰指導

(一) 對潛索敵攻撃

0693

四日四時高警報對潛警報 北緯二七度四分、東經一七度五分敵浮上
潜水艦見テ急報ニ接シ 機密廈門方面部隊命令第三三號及三七號
ヲ以テ四日午後及五日早曉二回ニ亘リ右敵潛索敵攻撃ヲ實施セシモ
敵潛ヲ捕捉シ得ズ

(二) 對潛哨戒

本期間水偵一機ヲ以テ連花峯半角、石島方面並金門島沖海面ニ對シ
七日、對潛哨戒ヲ實施セリ

(三) 船舶護衛

第十四聯隊空電令作第一四號ニ依リ、臺南航空隊ノ零戰三機四日一三五
五原隊發一五〇。廈門着當隊ノ指揮ニ入ル
五日二二八〇船高崎丸基隆ヨリ廈門入港ニ際シ、九一七ヨリ、九一五連廈門
港外ニ於ケル對空對潛哨戒ニ任セシムト共ニ高崎丸在泊中、七三ヨリ
日沒時迄上空哨戒直衛ニ任セシメタリ、
六日二四五高崎丸基隆ニ向ケ廈門奔 零戰三機廈門於先任務終了、
七日原隊ニ復歸セシム 零戰三機ヲシテ後龍沖ニ向ケ航行中、高崎丸ノ
直衛(約一時間)ヲ實施セシメタリ。

(四) 大和丸投上索

二十四日機密廈門方面部隊命令第四十三號ヲ以テ二十三日香港發テ二十五日四
〇。廈門入港予定ノ大和丸、汕頭廈門間ノ直接護衛ヲ實施ス

0694

仍予警備艇第十三號八二十五日。廈門發任務。就キタルモ一四。ノブロッ
 二三一。度ニ運ニ至ルモ大和丸ヲ發見シ得ズ。天候漸次陰惡トナルルニヨリ。一
 五歸收ス。二十六日ニ至ルモ大和丸入港セズ。依テニ號水偵ラシテ南澎高島
 及南澳島附近一帶ヲ搜索セシムルモ發見シ得ズ。翌二十七日ニ號水偵一機
 ラシテ更ニ廈門汕頭間ヲ搜索スルモ發見セズ。
 按ズレニ今船八二十四日一六。田尾角通過後颱風為遭難行衛
 不明トナリタルモノナリ。

(五) 一般 警備 備

- (1) 七日。七鼓浪嶼令遣隊。對岸並細亞ヲシテ中央棧橋ヲ鉄材運搬中
 ノ敵戒克一隻ヲ發見。早機銃ヲ以テ之ヲ射撃。船首ニ命中。敵ラシテ
 中央陣地岩礫ニ遁入。生礁浸水セシメタリ。我方人員兵器異常ナシ。
- (2) 二十九日。四三福建和平救國軍部隊(兵力約一〇〇名)浮江進攻作戰ニ際シ川
 石島派遣隊ハ砲艇大發名振丸ヲ以テ援護セシメ救國軍ヲシテ該島ニ進
 駐セシメタルモ翌三十日自動火器ヲ有スル敵有力部隊ノ反攻ヲ受ケ救國軍彈
 藥缺乏ニ至リ戰意喪失撤退ノ已ムキニ至リ。敵ノ戰意悔リ難キモアリ
 川石島派遣隊ハ嚴重監視中ナリ。
- (3) 七月。中水上警備科。依ル戒克(漁船)臨檢數次ノ通

(六) 教育 訓練

大型戒克四隻、中型戒克二四隻、小型戒克一三隻、計一三三隻

厦	丸山嵐	厦	丸備警	厦	丸角大	川	丸大福	厦	丸振名	厦	丸進南	金	丸日春	厦	丸寶長	厦	丸三海	厦	丸一第
二			號三十																

(二) 附屬艦艇航行動

厦門島内雲頂山頂電探裝備諸工事ハ施設部ノ要員資材ノ不足ニシテ予定ヨリ遅延シツツアリ。

(三) 施設

對スル基礎教育ヲ十七日ヨリ開始順調ニ進捗中ナリ。
機密第一遣支艦隊命令第一八號ニ基キ福建和平救國軍特別教育ハ二十四日ヨリ開講参加員福建和平救國軍幹部計四百名順調實施セラレツアリ。

(四) 第二國民兵基礎教育

七月十七日入隊ノ第二國民兵(昭和十九年四月十五日佐團冬着ノ機關兵)ニ名ニ對スル基礎教育ヲ十七日ヨリ開始順調ニ進捗中ナリ。
重点ヲ置キ常時對空警戒配備ニ就カシメ機宜訓練ヲ實施對空戰鬥ニ萬全ヲ期スルト共二月八日ノ訓練日ヲ是メ夜間訓練勵行尙且回營準備演習ヲ實施スル外夜間銃劍術角力ノ競技ヲ行ヒ技倆ノ向上俾テ之ヲ鍊成士氣ノ振作ヲ圖リツツアリ。

三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	八	七	六	五	四	三
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

入 香 港 厦 門 門

門

石

門

港

澳

門

門

陸 文 理 修 関 嶺 体 船)

崎

高

島

門

厦

陸揚

門

0697

自昭和十九年八月三日 廈門方面特別根據地隊戰時日誌

一、經過

(1) 敵情

(一) 福建省一般 (別圖第一參照)

(1) 我福建省進攻ヲ尤懼スル第三戰區司令部於六月前月ニ引續キ依然トシテ省内防備強化、兵力配備ニ狂奔シツ、アルニシテ如ク七月三十日省内東南地區防備責任區域ヲ發表、閩東、福州、及福州方面ヲ第一八十三師 (一説ニ六三師ト謂ハル) 福州ヨリ泉州迄ヲ第八師、同安地方ヨリ詔安迄ヲ第一七師ノ責任區域ニ指定命令セリト謂ハル、更ニ本月泉州方面ニ豫備第九師ヲ駐防セシメテ第八師、第七師ト協同防備ニ就カシムル一方重慶軍政部ノ命令ニ依リ省保安團ヲ糾合シ福建省獨立師ナルモノヲ誕生セシメ (兵力約一五團ト云フモ真偽不明) 福州長樂、福清一帯ニ駐防セシメリト、而シテ沿海一帯ヲ第一防備線、各縣城所在地点ヲ第二防備線、奧地山嶽地帯ヲ第三防備線ト定メ、コノ程、閩東沿岸ニ在リタル第六三師及福建省獨立師ヲ第二防備線ニ後退セシムルト共ニ第一防備線ニ縣保安團ヲ配シ防備布陣ニ慎重ナリト謂ハル

(2) 本月二十日永安ニ於テ第三戰區總司令臨席ノ下ニ在リテ空軍幹部多

0699

數重慶派遣高級參謀數名各地防備軍幹部ヲ網羅セル對日抗戰緊急軍事會議開催ナレ討議ノ結果對日攻戰ノ足場ヲ廈門鼓浪嶼ニ決定米海陸空ノ増強ニ意見一致ヲ見タリトノ情報アリ其ノ證左ト見ルベキ省內ニ於ケル米軍部隊ノ往來頻繁ナリ即チ長汀雅行場ノ整備増強及ヒ龍岩方面ニ内容不明ノ米軍部隊到着シ最近其ノ一部ト思ハル米陸軍大砲隊(兵力約五〇〇ト云フ)漳州ニ出現シ郊外ニ陣地ヲ構築シツアリト

斯クシテ米軍が福建大陸ヲ舞台トシテ我ニ挑戰セトスル意圖濃厚トナリ(二)廈門鼓浪嶼金門島對岸地區(別圖第ニ參照)

(一)第七師第三團同安海澄一帶ニ駐防シ居ルモノ本月一三日以後一齊ニ漳州ニ移動セル模様ニシテ亦福州沿岸地區一帶ハ保安團ニ依リ防備シタルニ如シ量ニ取漳説アタル第七五師部隊ハ浙江省衢州及攻戰ニ參加ノ為本月十日漳州ニ出動シ之ニ代ルニ第三戰區第三軍國際突擊隊(兵力約六〇〇名)本月中旬閩北方面ヨリ漳州ニ來駐スト而シテ該隊ハ新式機械化部隊ヲ有シ一班ニ米人指揮官アリ米式兵器操法ヲ指導ニ當リ居リト一方前項記述ノ如ク本月二十日永安ニ於ケル緊急軍事會議開催ト前後シテ漳州方面於ル米人部隊ノ往來漸ク頻繁トモナリ最近是レ種情報及如シ(一)泉州石碼同安等各沿岸ニ時々米兵ガ寫真機銃望遠鏡ヲ携帶出現地勢ヲ調査ニ當リ居リト

(三)最近米軍八閩南一帶ニ於ケル前衛防備ニ努メツアリ。本月十日米國兵六名漳州師部便衣隊十数名港尾ヨリ崙仔尾ヲ經由南大武山一帶ニテ沿岸ノ地勢ヲ約六日間ニ亘リ調査測量セリト。

(三)八月五日米國人八名廣東人八名ヨリナル一行漳州ニ来リ市内馬坪街公園前向家屋ニ無線電信機ヲ設置セリト。

(四)漳州市内ニ米國陸軍大砲隊兵力約二百名龍岩方面ヨリ末駐漳州近郊ニ陣地構築茲ニ戰鬥訓練ニ從事シツアリト。

(五)對岸嵩興ニ最近米國人五名現レ嵩山平ノ地勢其他ヲ調査シツアリ。之等米人ハ元亞細亞タック事務所ニ居リ構ヘタリト。

(六)對岸集美方面ニ於テハ最近在又米艦軍ト認メラルル軍裝セル者或ハ私服ノ者夜陰ニ乘ジ沿岸一帶ノ視察ヲナセリト。

(三)川石島對岸地區(別圖第三參照)

本月ニ於ケル對岸地區ニ長門、瑤頭、及慰斗島、黃岐島方面敵配備狀況ハ前月ニ大差ナク依然トシテ福州海軍陸戰隊之ガ防備ニ當リ居リ。我ニ對スル挑戰的動靜ナキモ、本月省保安團ニ依リ編成ナレシ福建獨立師、福州一帶ニ駐防スルニ至リ對岸沿岸地區ノ防備一段ノ強化ヲ見スルモノ、如ク加フルニ福州警備司令李去甲ハ福州、長樂、連江、羅源各方面ヨリ優秀ナル青年三百名ヲ募集、挺身隊ナルモノヲ組織、目下銳意訓練中ニシテ終了後ハ廈門、鼓浪嶼、金門島及馬祖島、烏坵

0701

與方面、潜入セシメ、和平地區、後方攪乱、情報蒐集ヲナシムト、
(四) 在支米空軍、敵潛水艦

(一) 在支米空軍

本期間在支米空軍、當方面ニ對スル、動向我然、活潑化シ、廈門島
方面ニ於ケル大型機(B24ト推定)及P42型、何レモ高度ニ依ル偵察計
七面ニ及ビタル外、晝夜不明爆音ノ、聽取十七回ヲ算シタリ、
八日大詔奉戴日ニ當リ晝食時ヲ窺ヒP42型戰鬥機七機、廈門
ニ未襲、銃爆撃ヲ行ヒ、後其ノ蠢動愈々頻繁ヲ加ヘテ二十日
以後大型機(B24ト推定ス)ヲ以テ主トシテ、深更夜間爆撃ヲ試ミ、末
二十五日廈門、鼓浪嶼、茲、小金門島ヲ盲爆、二十七日金門島ヲ銃爆
撃、二十九日小金門島ヲ盲爆セリ、島外派遣隊ニ於ケル機種不明機
ノ飛来及不明爆音ノ聽取、又數回ヲ算シ、二十日馬祖島ニ機種
不明機六機、未襲、福建和平救國軍陸上施設其、他ヲ銃爆撃
スル等、重要據点、衡陽ヲ失ヒ次テ、遂川、零陵、郴州、南昌
等、我ニ在支制空部隊ニ對ササルニ至リシ、敵米空軍ハ漸次
粵地基地ニ後退シツ、モ飛行機、増強ニ大ニ注シテ、續々補給シツ、
アルモノ、如ク大型機ヲ使用シテ、台湾、我本土空襲ヲ企圖、次テ福
建省内ニ基地、増強、既設基地ニ對スル飛行機、送置ニ急ナルモノ
如ク、近時福建省内ニ於ケル彼等ノ蠢動極メテ顯者ニナリツ、アリ、

本月福建省内ニ於ケル在支米空軍関係上ノ通(確度丙)

(一)桂林駐在、在支米空軍第...支隊長カイビロードハ客年十一月頃
長江ニ分隊ヲ設置シタルガ最近漳平縣ニ分隊ヲ増置セシガ為本月

十日漳州ニ来リテ軍党政各要人ト懇談シタル後高嶺ヲ視察而シテ
嵩嶺ニ監視台ヲ設置シテ我動靜ヲ探索セント計畫シツツアリト

(二)永安、建甌兩飛行場ニ地下格納庫ヲ設置セントシ本月十日ヨリ土木工
事ヲ以テ工事ニ着手セリト

(三)龍岩新飛行場ハ昨年九月ニ着手此程完竣シ既ニ使用ヲ開始セリト

(四)福建空陸最高指揮部ニ於テ閩南沿岸一帯ニ於ケル艦船出入港
監視ヲ為南大武山(廈門對岸)頂大武塔ニ米國最新式無線電
台ヲ設置スベク要人二十名ヲ派遣セリト

(五)長汀飛行場ニ最近盛ニ空輸行ハシテ着荷甚モハ主トシテ銃
器砲身・彈藥ナリト

(2) 敵 潛 水 艦

當隊擔任海域ニ於ケル敵潛出現本月皆無ナリト雖モ台湾海峡

(台湾寄り)ニ對スル出没前月ニ引續キ頻繁ニシテ三十日北緯一度
三十分東經三二度九分ニ於テ力行丸衝撃三本ヲ受テ損傷ヲ蒙リタル等最

近台湾南西方海面ノ出没殊ニ多キヲ加ヘ依然トシテ我補給線ノ破壊・攔阻等
情報ニ依ル本月上旬頃福建省東山島附近海上ニ於テ米潜水艦二隻遊

0703

式中之漁船員等見セリト(真偽不明)
(四)我が軍ノ状況

(一)任務

- (1) 敵艦艇、航空機等ノ沿岸及島嶼利用阻止
- (2) 所管海面ニ於ケル海上交通保護(航路標識、確保等ニ非占領地域ヨリノ重要物資獲得ノ援護ヲ含ム)
- (3) 敵國並ニ之ニ準ズベキ中立國船舶ノ拿捕抑留
- (4) 非占領地域ヨリノ軍需物資補給ノ遮断
- (5) 厦門港ノ防備、厦門、鼓浪嶼、金門、小金門並ニ川石各島ノ確保

(二)編制(別紙第一參照)

- (1) 第一遣支艦隊 厦門方面特別根地隊
厦門方面兵力部署ヨリ部隊ヲ分チ主隊(厦門島部隊)島外派遣隊(金門島川石島)監視部隊(甲監視部隊乙監視部隊)飛行機隊トス
- (2) 南支第一飛行機隊 厦門派遣隊水偵三號機八日敵P40型戰鬥機、未襲ヲ受ケ焼失ス
- (3) 二十九日南支部隊電令第四〇八號ニ依リ警備艇第十號ハ香港方面部隊ヨリ除カレ當隊ニ配屬サル

(三)配備(別紙第一第三別圖第四第五參照)

- (1) 主隊、大部ヲ以テ厦門島、鼓浪嶼及島外派遣隊ヲ以テ金門島(約三小隊)

0704

川石島(予小隊)確保並ニ防備ニ當ラシム。

(2) 監視部隊及主隊各船艇ヲシテ敵艦艇、航空機等ノ沿岸及島嶼利用
阻止、所管海面於ケル海上交通保護及非占領地域ノ軍需物資補給ノ遮
断等ニ任ゼシム。

(3) 厦門島部隊中ノ水上警備科ヲ以テ厦門港附近海面ノ警戒及港務艇ニ任ゼシム
(4) 飛行機隊ハ所要ニ應ジ海上交通保護及對消索敵攻撃並ニ敵軍事
基地ノ爆撃ニ當ラシム。

(5) 南澎高島燈台(警戒兵五名)北椏島燈台(警戒兵三名)東椏島
燈台(警戒兵三名)及閩南警備軍若干(烏丘嶼燈台(警戒兵五
名)和平救國軍若干)ニ警戒兵ヲ派遣シ警備並ニ防空警報ノ速報ニ
當ラシム。其他ノ燈台ハ張逸舟總司令、福建和平救國軍ヲシテ守
備セシメツツアリ(別圖第六參照)

但シ青嶼大担與、各燈台、閩南警備軍ヲシテ守備セシメツツアリ。
(四) 當隊担任海面所在全燈台ノ消燈實施

當隊担任海面所在ノ燈台ハ航行船舶沿シト無キ状態ニシテハ敵潛及
敵機ニ利用サルル虞アリニ鑑ミ、十六日厦根機密第六八五三番電並
ニ同第六九二六番電ヲ以テ左記ノ如ク命令シ各派遣隊ヲシテ十六日以後
全燈台(大西洋山島、東引島、大島、山島、島、北椏島、厦門港
内、全燈台、大担與、青嶼、東椏島、南澎島、糖塔島、鹿嶼全

0705

望角)消燈ヲ實施セシメタリ

記

一、今燈臺ハ消燈シ特令ニ依リ点燈ス

二、点燈中敵機ノ爆音ヲ聴取シタル際ハ消燈セヨ

三、点燈ノ際ハ光達巨甯ヲ五哩ニ減光シ出末得ル限リ上空遮蔽ヲナセ

四、常時部落ノ燈火警戒管制ヲナシメヨ

(ハ) 作戦指導

(一) 敵陣地爆撃

水偵一號機ハ五月二五ハ基地峯進鼓浪與對岸打石坑部落内敵兵舎

ニ對シ六〇呎爆彈ヲ投テ之ヲ撃撃兵舎ヲ倒壞敵ヲ四散セシメ八二一

歸投セリ我方人員兵舎異常ナシ使用爆彈六呎陸用爆彈三発

六〇呎ニ通常爆彈一発

(二) 對空戰 閱(別圖第七參照)

八日ニ六敵P40型戰鬥機七機(増槽附)北方ヨリ高度一〇〇米以下ニテ

厦鼓水道ニ侵入燈臺補給船併微當隊烹炊所第一八幡丸

水偵基地ヲ及復銃爆撃シ厦門島東岸ヲ北上内三機ハ高崎飛行

場ヲ銃撃セルモ我が及撃ニ依リ高度約一〇〇〇米ニテ西進四機合同シ鼓

浪嶼西方上空ヲ迂回東進シ内三機金門島ニ向テ小金門島西岸ノ

部落其ノ他ヲ銃撃シ金門島方面上空ニテ四機ト合シ一三二五高崎

對岸大陸ニ迫ラセリ

被戰果

被戦果
被下爆彈七個内四個海上、一個水上科兵舎附近(首彈)、一個煮炊所ニ命中、今所全壞、水上警備科第一舎一部損傷、一個東亞海軍棧橋ニ命中、損傷大、銃撃ニ依リ水偵一機(運搬車共)燒失、全格納庫ニ被弾、高崎雅行場待合所ニ三機被弾(銃撃彈)損傷、戦死十二名(兵)輕傷九名(下士官)兵四、警官一通辨、一船員(其他市民(台湾人、中国人)死傷十數名)

(三) 船舶直接護衛

二十七日一四。廈門向香港航路、日船第百州丸、東根島、廈門間、直接護衛トシテ警備艇第十三號ヲ出動セシム、警備艇第十三號ハ二十九日、五。廈門発。七四五東根島、三四。度一湊ノ地点ニテ第百州丸ニ合同、護衛ニ任ジ。四。廈門ニ歸投ス。

(四) 海賊ヲ克討伐スルニ船艦護衛

警備艇第十三號ハ機密廈門方面部隊命令第四八號ニ依リ南澎高島旅遣兵力交代員輸送ニ香港ヨリ回航、警備艇第十三號、南澳島、廈門間、直接護衛ニ任ジ三十日廈門発、三十一日、四。南澎高島着、兵力交代ヲナサメントセシモ、ノースロックスニ蟠踞スル海賊約七名

0707

我艦數隻ヲ有シ附近海面ヲ横行ストノ情況ニ鑑ミ交代員ノ歸厦ヲ
其メ當分ク問 其ノ儘トナサシメ重機(七七)機銃(一)ヲ同派遣隊ニ
貸與スルト共ニ嚴重ナル警戒方指示シタル上。七〇。同島着。七三。ク
スロツス沖ニ到着。海賊家屋及碇泊中ノ敵我克三隻ニ對シ短六機砲
一十三粒機銃ニテ以テ銃砲撃シ甚大ニ損傷ヲ與ヘ。七四。射撃止メ。九三。
南澳島着。先着ノ警備艇第十號ニ合同。同日ハ。厦門ニ向ケ同島着
直接護衛ニ任ジタリ。

(五) 一般 警備 備

(一) 日一九三五頃對岸ヲ去真後方海面ニ碇泊中ノ交易船一艘一隻、鼓浪嶼海
面ニ向ケ航行ヲ開始スルヤ去真對岸ノ左大陸沿岸駐屯中ノ敵約三十名、
擲彈筒二挺、輕機二挺、小銃四五挺ヲ以テ該船ニ射撃ヲ加ヘ来レリ、
鼓浪嶼分遣隊ハ十二榴砲及四十粒機銃ノ射撃ヲ準備完了、其ノ成行
ヲ監視セリ、處一九四三敵ハ射撃ヲ中止、該船ハ一帯ノ被彈ナク鼓
浪嶼指定泊地ニ遁入リ、其ノ後異狀ヲ認メス。
(二) 二日〇二七厦門港外青真方向ニ爆音聽取。〇二一八單機爆音(B)
ト推定)厦門島上空旋回シ南方ニ向ヒ。〇二五一旦消エタルモ。一三。大
盤角方向ニ再度爆音シ。一三五鼓浪嶼分遣隊本部ト第一陣地下
ノ中間地區ニ四發(内一發彈)落地ニ一發、續テ。一三七厦門島
半頭山下ノ附近、南西方沿海地其他ニ計三發爆彈投下シ。一五。要細

要タンク方向ニ爆音消去リタルモ。ニ九六担與方向ニ爆音。三一小金門島揚厝部落附近ニ爆彈投下九発。ニ一厦門島ニ再度侵入司令部上空ヲ経テ。ニ一五鼓浪與對岸大陸方向ニ飛ビ去リタリ。

被害、鼓浪與民家数戸倒壊中國人三名死亡、同重軽傷数名、

(3) 三日月。三金門島ニ敵機單機(B24ト推定)未歸來、同島小金門、

吳厝部落間ニ爆彈投下一個、水頭部落附近ニ銃撃ヲ加ヘ、

一五對岸南大武山方向ニ飛去リタリ。

被害、無人家屋一、倒壊。

(4) 二十九日。四三金門島上空ニ單機(B24ト推定)爆音。一五三爆音ハ厦門南方大担與上空ヲ経テ。一五五南大武山方向——要約要タンク方面上空ニ

移動セシモノ。一五七及轉シ東提島上空ヲ迂回シ。ニ。小金門島ニ未襲

向島鷄頭山林鹿ヨリ歩頭部落ニ爆彈五個投下直走セリ被害ナシ。

(5) 八月中水上警備料「依ル戒克(漁船)臨檢数次ノ通、

大型戒克六八隻、中型戒克二六隻、小型戒克一〇三隻、計一三七一隻、

教 育 訓 練

(1) 艦隊教育方針ニ基キ極メテ順調ニ進歩シツアリ、近時敵機未襲

頻繁ナルニ鑑ミ特ニ對空戦闘教練ニ重点ヲ置キ、平時對空警

戒配備就カシメ機宜訓練ヲ實施、對空戰鬥ニ萬全ヲ期スル共ニ月

八回ノ訓練日ヲ定メ夜間訓練ヲ勵行、尚月一回警備演習ヲ實施

0709

厦門特報
19-8

四	三	二	一	日
香	九	山	嵐	警第警第
厦	厦	厦	厦	被備警 雅十第 航備十 路三第
厦	厦	厦	厦	九角六
雄	高	九	大	福
川	厦	九	旅	名
厦	厦	七	十	第南
金	厦	九	日	に春
厦	厦	九	寶	長
厦	厦	三	十	第海
厦	厦	一	九	第八

(二) 附 屬 艦 艇 行 動

- (1) 一日司令部構内海岸二十三艦 單裝機銃二基 裝備ス
- (2) 三日高崎飛行場二十三艦 單裝機銃二基 裝備ス
- (3) 五日右
- (4) 雲頂山頂電探裝備諸工事ハ本月十日迄廠ヨリ上原技術中尉ノ末隊ヲ得テ銳意努力スツアリ

(六) 施 設

スル外夜間銃劍術、角力ノ競技ヲ行ヒ技拙ノ向上、体力ノ錬成ニ
 一氣ヲ振作シ圖リツクアリ
 (2) 第二國民兵基礎教育及民軍特別教育
 前月ニ引續キ目下順調ニ進捗中ナリ

0710

二二一九八七六五
二二一九八七六五

(仲理修渠入) 港

八〇日第令電隊部支南日九十一月八
ルナ十屬配=隊部面方門厦

門

厦

馬公

石

沖港漁門

門

(理修揚陸) 門

高

島

門

厦

金門島

門

0711

